

卒業、おめでとう。私たちが生きざる道のは、不透明なことだらけ。どんなに努力しても、社会的に成功するとは限らない。しかし、人生の勝者は、例外なく必ず努力をしています。試行錯誤を繰り返す勇気をもと。

(柳 善一)

How's it going? きみ達の澄んだ瞳が本当に好きでした。どうかその目でずっと未来を見続けて下さい。

(五日市 浩)

みなさんは受験というものを通してそれぞれ自分と向き合っていたことと思います。この経験は実に貴重なもの。受験の結果はどうあれ、この得難い体験を忘れず、今後の人生を力強く生きていってほしいと切に願います。

(高橋 力)

これから進む道は人それぞれ様々ですが、いざれにしても素敵な大人になつて、ください。

(上野 真宏)

卒業おめでとう。健康に留意し、親に感謝し、友を大切に、学びを尽くし、自分が心から打ち込めるものを見つけ、自分の能力を最大限に発揮し、世の中のことを知り、貢献し、自分になれる最高の自分になりなさい。

(小林 健輔)

ちよつぱり寂しい気分をエッセンスして、新しい道へと歩んでいくついでに、きつと素敵な出会いが待っていることでしょう。

(瀬野 武士)

卒業おめでとう！この受験を通じて一歩、また一歩大人へ成長できましたね。応援してくれたみんなに感謝しましょう。そしてこれからも前へ、前へ突き進め！創学舎で皆さんに出会えて嬉しいのです。ありがとう。

(森 清志)

合格おめでとう。思う大学に無事入学を果たすことができた君。無念が残る結果になった君。それは君らが自らの手で勝ち取った結果だ。いざれ、胸を張つてその大学の門をくぐれ。そして、与えられた四年間という時間で凡ゆることをすべし。しかし、必ずや学問の徒であれ。それは、価値観がこれほどに流動的な時代にあって、君たちが生きる羅針盤になりうるものだと私は信じる。君たちの人生はここがゴールではない。いまやっとそのスタートラインにたったのだ。その、人生のコメントメントに心からおめでとう。

(上 静恵)

卒業おめでとう！苦しうも負けない強さを受験の中で身に付けたはず。一回りも二回りも大きくなつた経験を活かして、これからはとにかく好きなことに向かつていこう。

(大久保宏美)

卒業おめでとう。ごさいいます。これから新しいステージに立つ皆さんのご活躍を陰ながら期待しております。いつか笑顔で教室に来てくれることを祈つて。

(中村 瑠一郎)

皆さん、ご卒業おめでとうございいます。遙か長い道のりを歩き始めた君に幸あれ！

(鮎澤 崇嗣)

ご卒業、おめでとうございいます。卒業後の活躍も期待しています。「努力次第で平凡は非凡になる。」私の好きな言葉のひとつです。みなさんにプレゼントします。

(小池 寿幸)

偉そうなことを言うつもりはありません。卒業したことを喜んで下さい。「こんなおじさんがいたなあ」と思い出してくれて、気の向いた時に遊びに来てくれると嬉しいな。但し、アポ無しで来るとご馳走できないよ(笑)。

(山崎 將之)

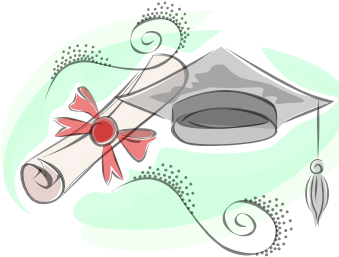
ご卒業、おめでとうございいます。受験を経験したこと、自分の強い所や弱い所がたつき見えてきたと思ひます。これをきっかけに、自分が一日一日前へ進めるよう、一歩ずつ小さなことからやってみることにしましょう!!

(小林英一)

ご卒業、おめでとうございいます。これから先の人生、どんなに高い偏差値の学校へ入学しても、そこで怠けては全く意味がありません。どこを卒業したかではなく、そこで何をしていたかが重要だと思ひます。これから先も、学びを継続してゆきましよう。皆さんの未来に、幸あれ!!

(高野陽介)

卒業おめでとう



ご卒業おめでとうございます。新しい生活の準備は始めていますか？更なる成長を期待しています。落ち着いたらいつでも顔を思い出してくださいね！

(浅岡 茜里)

「ピカピカの高校生！」おめでとう。人生の中で最も楽しく、最も輝く三年間と言つてもいいと思ひます。悔いのないよう思う存分楽しんでください。

(新島景子)

人生の新たな局面に歩み始めた今日、これまでお世話になった人に感謝し、これからの人生をより充実したものにしてください。

(松永 弘文)

今日という日は、残された日々の最初の一日。人生はまだまだ続きます。これからの活躍を祈念しています。

(関 憲吾)

卒業おめでとう！皆さんは、高校入試という人生においても大事なイベントを経験しました。両親や周りの人の優しさ、受験勉強という孤独な戦いの厳しさなど想像できなかった経験だと思ひます。この経験はみなさんのおかげがえのない財産になったはず。この経験を活かして、次の大学受験や就職に臨んでください。いつまでも応援しています。

(長坂 浩之)

また一つ春を迎えました。夢は少し大きく目標は少し高く。この「少し」の積み重ねで、いつの間にか大きく成長してゆきましよう。

(高橋麻衣子)

ご卒業、おめでとうございます。高校入試で努力した経験は、今後の人生で大きな糧となるでしょう。そのことを胸に、自信を持って新しいステージを歩んでください。

(矢上 有二)

卒業したらそれで終わりなんて寂しいですよ。一緒に勉強した仲間をいつまでも大切にしてください。そして、創学舎にも気軽に顔を出してください。みなさんにまた会える日を楽しみにしています。(高寺大介)

成功者は必ず投資しています。しかし、それはお金にしているのではなく、時間という人生最大の財産に投資をしているのです。今この一瞬も時は流れていきます。未来は今の積み重ね。是非、今この瞬間に投資しましょう！

(村田 寛之)

卒業おめでとう。新しいステージが君を待っている。ただ、そこでは君は新参者だ。力を発揮するに、新しい力を身につけよう。期待しているぞ。

(大場 健司)

【雨は一人だけに降り注ぐわけではない。】この春先に辛い思いをしたのはあなただけではない。同じ境遇の人がいる。私も同じ境遇に身を置いた人間だ。少し時間をおいてからでいいので、顔を上げてみよう。あなたが頑張った時間や姿勢が必ずれ幸せを呼び込むはずだと私は信じています。あなたが心から喜べる日が来ると。心から喜べることは素晴らしいことだ。心から喜べることは素晴らしいことだ。心から喜べることは素晴らしいことだ。心から喜べることは素晴らしいことだ。

(松尾 裕史)

卒業おめでとう！皆さんは、高校入試という人生においても大事なイベントを経験しました。両親や周りの人の優しさ、受験勉強という孤独な戦いの厳しさなど想像できなかった経験だと思ひます。この経験をみなさんのおかげがえのない財産になったはず。この経験を活かして、次の大学受験や就職に臨んでください。いつまでも応援しています。

(長坂 浩之)

卒業おめでとう。受験勉強お疲れ様でした。スタート地点によく辿り着けましたね。受験を通して得られた経験は一生の財産です。生かすも殺すもみなさん次第です。創学舎で学んだことを生かして、これからの長い人生をより豊かで善いものにしてください。卒業おめでとう！

(櫻村 公太)

卒業おめでとう。今までの学校生活では楽しかったことも辛かったことも経験として大切にしてね。そしてこの春からまた、気持ち新たに自分のやりたいと思つたことを思いっきりやってみてね。応援しています。

(松本 政子)

卒業おめでとうございます。四月からは新しい環境での生活が始まります。新しい人と出会いを大切に充実した時を過ごしてください。

(村上 静馬)

英語ペラペラですか は愚問です

●語学を学ぶ人にとって、その言葉が話される国に行ってみたいという思いは少なからずあるもので、私もそうしてカナダにいったうちのひとりだ。海外にいたというとまず聞かれることは、ほぼ間違いなくタイトルにあるこの言葉だ。少なからず上達はしたと思うが、たかが一年くらいでめまぐるしく上達できるほど語学は甘くない。それよりも私は大切なことを学んだ。

●そもそも私がカナダに行くことになったのは日本語と日本文化を教えるという日本語ボランティアに志願したからである。英語を指導するものとして生の英語とそれを話す人々の現地の生活を見てみたい、講師という職業柄自分のつたない英語でどこまで授業ができるか試したい、またカナダの教育がどんなものか見てみたいという思いがあった。海外生活といえは多くの人が十代二十代で経験するが、私の場合三十過ぎでこのこと、石橋を叩いて叩いて「渡る性格の自分が突然そんなことをいったものだから周りのものを驚かせ、日頃なかなか会うことがない兄弟三人今生の別れでもないのにつしよに食事をするにもなった。

●カナダでは、特にバンクーバーを中心とする西海岸方面では、日本のアニメを通して日本語に興味を持つ若者がいるため授業で日本語をとり入れている学校がある。そのためそういったボランティアの需要がある。しかし私が行ったのはそんな日本語熱の高いところではな



く、カナダの中央にあるマニトバ州リンレイクという小さな街だった。北緯五十六度に位置し、昔はニッケルの炭鉱の街としてさかえ最盛期には映画館もあるようなちよつとした街だったようだが、炭鉱が閉鎖された今では人口が減り人口三百人ほどの小さな町になっている。そこにある唯一の学校が私の活動の場になった。

●ところがいざ学校に行ってみると、校内はゴミが散乱し、授業という授業は活気のあるものではなく期待を大きく裏切られた。正直すごいところに来てしまったと思った。そこはカナダの人もここはカナダではないと言っていたほどカナダの中では特殊な環境にあったとはいえず、カナダってこんなものかと少し見下すようになっていた。また経済大国日本からボランティアで来たという変な意識があつてか上から目線にもなっていた。そこに相手に敬意を表するという意識はなかった。そんな思いがりにあるとき天から罰がくだった。

●残り滞在日数三ヶ月となったある日、ホームステイ先のホストマザーと口論になり、売り言葉に買い言葉で家を出ることになった。今思えば相手も本意ではなかったかもしれないが、私も冷静ではなかった。外はマイナス40℃の世界で長い間外に出られず、ストレスが溜まっていたのかもしれない。

●家を飛び出してみたものの行くあてもない。とりあえずホテルに泊まるが、一泊一万円。毎日ホテル住まいとはいかず困ってしまった。富める国日本から来たと思巻いていたが住むところさえ一苦労する有様。結局色々な人の協力を得てアパートを借り新しく生活をスタートすることができた。今まで見下していた人からも暖

かい声をかけられ、これまで自分がどんな気持ちで接してきたのか恥ずかしくなった。思い上がっていた自分に気づいた。

●英語に respect(リスペクト)という言葉がある。日本語に訳せば「尊敬する」とか「敬意を表す」と訳せるが、滞在中よく見聞きしたこの言葉だが、このとき初めて私の心にすつと入ってきた。私に欠けていたものはまさにこのリスペクトするという考えだったのだ。いろいろな民族が共存するカナダだからそれぞれ価値観を大切にしようという考えが根底にあるのだろう。しみじみこの言葉が素晴らしいと思う。語学を身につけるよりも大切なものを私はこのカナダで得た。わざわざ海外に足を運ぶ意義がそこにあると思う。だから「英語ペラペラですか？」は、語学習得を一番の価値と見る愚問に思えてならないのである。逆に私は海外で暮らしたことのある人に会うとどんな経験を話しか聞くようにしている。きつと私のように何か貴重な経験をしているにちがいないからだ。間違っても私の口から「英語ペラペラですか？」と聞くことはない。(小池)

きみときみの親のために

●卒業式の朝から、親の胸はいっぱいだった。いつも無口な親かもしれない。小言しか言わないし、きみのことに無関心ときみにはみえる親かもしれない。きみの進路に不満をもっている親かもしれない。それでも、親はみな、きみのことを考えていた。

●きみが、生まれたときのこと、病気になったとき、きみが初めて歩いたとき、つらかった日々

のこと……。入園式、入学式、運動会のこと、卒業式、卒業式のこと……。自分自身の子育ての後悔もあるだろうし、これからの心配もあるだろう。きみときみは、遠い記憶から思い出をたぐり寄せていただろうが、それ以上に親は、心のアルバムからきみと自分のページをめくっていたのだ。

●式が始まった瞬間から、親は様々な思いを抱きつつ、ある事に集中した。そう、きみの姿を見つ、きみの名前がよばれ、きみの返事をきくことに。きみの名前が呼ばれた時、世界は、きみときみの親のために沈黙した。きみの声は親の心を射る。きみが少ししかしまはりにはかんで前に進み、階段を登り、証書を受け取り、再び自分の席にもどるまで。親の眼はずつときみを追った。一つの動きも見逃すまいと……。他の誰がこんなことをするだろう。そして、親の眼はきつと濡れていた。きみの成長を確かめられたからだ。ともかくここまでこられたことを確かめられたからだ。

●きみも大変だっただろうが、親も大変だったのだ。ここまでこられたことは万言をもつても尽くせぬ慶事だ。そのことは分かれ。そしてこれから。人が背負う荷物のも重さも種類もそれぞれに違うが、みんな幸福になるために生まれてきたのだ。せつかくもらった生命を大事にし、感謝し、学び、自分になれる最高の自分になるのだ。これも分かれ。

(小林(健))

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。

